



107.10/17

り、楽しげな家々には庭園があり、丘を越える散歩道がたくさんある」(イザベラ・バード「日本奥地紀行」)

「その丘の傾斜地にて」  
ノ山の町が心地よく横たわっている。人口三千を越す温泉場である。今はお祭りの最中で、どの家にも提燈(ちょうぢん)や旗が出してある。群衆は神社の境内にあふれている。神社のいくつかは丘の上にある。上の山は清潔で空気がからりとしている。美しい宿屋が高いところにあ

# トドの道は今

▷2◁

上山

があり、

執筆を支えた「もてなし

かれたのを契機に、同市でバードを見直す機運が高まつた。上山造

などのアイデア商品も生  
まれた。「バードが上  
山でもてなされた事実を  
大事にしていきたい」  
と井上さん。イザベラ・  
バードと「もてなし」  
亡人（女主人）とその美  
しい娘たちが一時間もが  
まん強く扇であおいでく  
れなかつたなら、私は一  
行も書けなかつたであろ  
う」などと、その様子が  
は鮮

バードが泊まつた宿は「津屋」で、その後名  
前が変わり、今はなくな  
ってしまった。その跡地  
駐車場になり、バード

が訪れた時代からあった  
というタラヨウの木だけ  
が残っている。

園緑化事業協同組  
年十二月、月岡八  
バードの顯彰碑を  
た。仲丁地区には  
武家屋敷通りに本  
パークを整備。バ

組合は同  
園内に  
建立し  
昨年度、  
小ケット  
ードが

愛に心を打た  
ンビニのおにや  
つた魅力があ  
した。

れた。コ  
さりとは違  
る」と話

「プロジェクト」のリーダーは、今は食用ホオズキの特産化に力を入れている。収穫後の処理で由を網状にした食用ホオズキは見た目もインパクト

本奥地紀行には、「娘  
は私を丘の上に案内して  
神社や浴場や、この実に  
魅力的な土地の宿屋をい  
くつか見せてくれた」昨  
夜は蚊がひどく、もし木

バードは、小国町市  
野々から宇津峠、川西町  
小松などを経て上山に至  
るまでの記録を、上山で  
執筆している。置賜盆地  
の風景をたたえた「アジ  
アのアルカディア」とい  
う言葉も上山で書かれ  
た。

を話すのを率直に受け取る。

## 活性化のキーワードに



食用ホオズキの試験栽培が行なわれている畑で摘み取りを  
体験した踏査隊

上田市

上山を訪れた際の写真をヒントに、背景に写つていた野面（のづら）積みの石垣を公園内に再現した。

上山を訪れた際の写真をヒントに、背景に写つてゐた野面（のづら）積みの石垣を公園内に再現した。

「バードの道」を踏査した東京のまちづくりグループ「元気・まちネット」（矢口正武代表＝戸沢村出身）のメンバーは、かみのやま温泉の旅館で上山まちづくり塾の関係者と意見交換し、情報収集。バードの顕彰碑やポケットパーク、会津屋のあった場所、さらには食用ホオズキを試験栽培している畑などを訪ねた。

「まちネット」会員で

明治時代に本県を旅したイギリスの女性旅行家イザベラ・バードの道をたどる東京のまちづくりグループ「元氣・まちネット」(矢口正武代表・戸沢村出身)の踏査隊は二日目の午前、上山市を自転車などで出発し、山形市へ向かつた。

「山形県は非常に繁榮しており、進歩的で活動的である」という印象を受ける。上ノ山を出るとまもなく山形平野に入つたが、人口が多く、よく耕作されており、幅広い道路には交通量も多く、富裕で文化的に見える」(イザベラ・バード「日本奥地紀行」)

# トドの道は今

▷ 3 ◁

立れ、旧羽州街道の碑がある。一帯はミユージアムパークとして整備が進められ、「将来は羽州街道をある程度復元する計画(県村山総合支庁)」という。

バードは、常磐橋について「酒巻川で私は、初めて近代日本の堅固な建築——すばらしくりっぱな

行」に書いている。

山形大付属博物館が  
〇〇四年に発刊した「治  
治の記憶—三島県令は  
路改修記念画帖」の中  
「南村山郡吉原村新道  
内酢川に架する常磐橋  
の図」がある。この刊行  
物は、三島の道路事業  
を、日本の洋画の祖と  
される高橋由が写生

記録した  
いる。  
それに  
は五連の  
橋が架  
三島の中でも  
誇つたと  
とに茶屋  
名所だつ  
水書で  
され、こ

画帳を基にして  
度も木橋が流  
に永久橋を建  
た。

設する」とは羽州街道の交通を重視する三島にとつて悲願だつた。人夫七万人余りを動員し、わざか四カ月で架橋したといふ。完成目前に通つたバードは、二島の故郷鹿児島から招かれ常磐橋を設計した奥野忠藏に会つた。

# 山形 <上>

石を敷き詰め  
た状態で発見  
された。

A photograph showing three cyclists on a paved road. The cyclist on the left wears a blue and white jersey and a black helmet. The cyclist in the center wears a white and black jersey and a black helmet. The cyclist on the right wears a blue and white jersey and a white helmet. They are riding past a yellow and black striped barrier. In the background, there are green trees and a range of mountains under a cloudy sky.

完成目前、常磐橋に感動

# 「近代日本の堅固な建築」

(文=報道部・伊藤哲哉)  
写真=同・色摩高幸)

「山形は県都で、人口二万一千の繁昌している町である。少し高まつたところにしっかり位置しており、大通りの奥の正面に堂々と県庁があるのでも、日本の都会には珍しく重量感がある。どの都會も町はずれはとても貧弱だが、新しい県庁の高くて白い建物が低い灰色の家並の上に聳（そび）えて見えるのは、大きな驚きを与える。山形の街路は広くて清潔である」と、バードは「日本奥地

イギリスの女性旅行家  
イザベラ・バードの道を  
踏査した東京のまちづく  
りグループ「元気・まち  
ネット」（矢口正武代代表  
）戸沢村出身の一一行は、  
二日目の昼ごろ、この日  
から参加した二人とJR  
山形駅で会流。計六人が  
自転車や徒步で山形市中  
心部のバードの足跡をた  
どった。

赤湯から真室川踏査同行

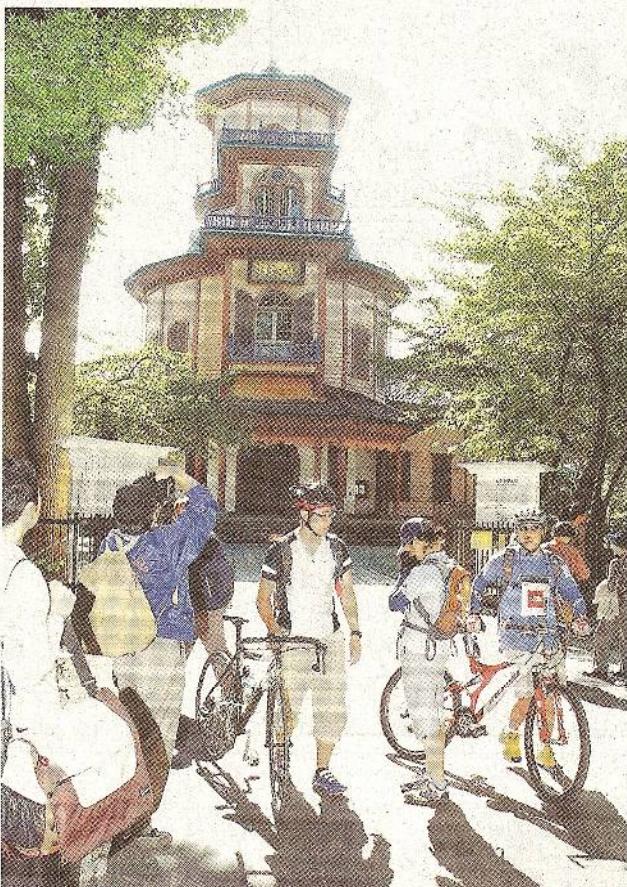
# 「ハードの道」は今

バードが来県した1878年に建設された旧済生館本館（現・山形市郷土館）を訪れる「元気・まちネット」の踏査隊

山形

〈下〉

は、霞城公園内  
バードが山形  
八七八（明治  
十二）年、市  
内七日町に建  
てられた公立  
病院。一九六  
六年に国に重  
要文化財に指  
定され、六九



# 「県庁」の重厚感に驚き

# 旧済生館本館 来県の年に建設

正時代の建物を修復した所で二十人の職員が何も  
ものだが、バードが「大しないで遊んでいるのを  
通りの奥の正面に堂々見たと書いている。  
と」と書いた場所は明治所で、西洋の制度を持ち込み  
以来変わっていない。学者の宮本常一は、外国で遊んでいたのを  
バードは山形に関する見たと書いている。  
記述の中で、洋風化が進んだ県庁所在地でヨーロ  
ッパの酒のまがい物が売られていることや、裁判  
の所で、明治維新後も何をしていいか分からなかつた  
この一節について民俗学者の宮本常一は、外国  
のまねをしていても中身が伴わなかつた洋風化と  
宣僚社会を表していると解説。江戸時代から仕事  
のなかつた日本の役人ザベラ・バードの『日本奥地紀行』を読む」というわけだ。「そういうわけで、「そ  
うわれわれの欠点を忠実におさえているという占  
が非常に興味のある記事で、非常に興味のある記事  
のまねをしていても中身が伴わなかつた洋風化と  
宣僚社会を表していると  
なのです」(宮本常一「イ  
解説。江戸時代から仕事  
ザベラ・バードの『日本奥地紀行』を読む」と)  
のなかつた日本の役人奥地紀行を読む」と

ためふきがつており、私が受け入れることはできなかつた」（同）と書いた天童を経て、東根へ。わずかに羽州街道の名残を感じさせる「東根の松並木跡」などを確認し、さらに北を目指した。

文翔館を後にした踏賀隊は、自転車三人とバス三人に分かれて山形市を出発。旧国道13号を北上した。

「山形の北に来ると、平野は広くなり、一方には雪を戴（いただ）いたすばらしい連峰が南北に走り、一方には側面にとてて見だして突き出た断続的な山脈があり、この楽しく愉快な地域をとり田舎（いなか）へと散在している」（「日本奥地紀行」）

107 10/21

戸沢村出身の造園家、バードは、「この二つ矢口正武さん(60)をり、ダードとする東京のまらうくりグループ元気・まちネット」の人は、イザベラ・バードがたどつた道を踏査する旅の二日目に、村山市の湯舟沢温泉に宿泊。そこで尾花沢市歴史文化専門員の梅津保一さん(66)に話を聞く。

芭蕉研究で知られ、東京をはじめ各地で講演することも多い梅津さん。イザベラ・バードの旅についても早くから注目してきた。「バードが訪れた二年後の一八八一(明治十四)年に明治天皇が本県を巡幸して

おり、初代県令・三島通庸はそれに向けて橋や道路の建設に力を入れた。これらを造った記録はあるが、当時の道の様子や県民の暮らしぶりを語る。

「自転車部隊」は夕暮れ時、上生田付近から遠くにくつきりと稜線(りよ

## 赤湯から真室川踏査同行

▶5◀

戸沢村出身の造園家、バードは、「この二つ

の町(村山市土庄田と尾

花沢)から鳥海山のすばらしい姿が眺められた」

「(鳥海)山は比較的に平坦(たん)な地方から

まったく思いがけない高

い。

ほど貧弱なはずはない」

「秋田の土崎港の祭り

に関する一節には、群集

二万二千人をたつ二

十五人の警官で警戒し

て立ち寄った。口出さん

また、バードは新庄をとある。

バードが訪れる十年前

に、「ここは大名の町であ

る。私が見てきた大名の

庄内藩に攻め落とされ市

の道德心が表れている。

えた猿羽根峠へ。息を切

らせて急坂を登ると、猿

ドの記述の中には、「湯殿山」とあるが、「その辺りから湯殿山は見えない。この山は月山ではない」と梅津さんは考

いか」と梅津さんは考

取引があるから、見た目

をたどる意義を再確認し

ていた。

うせん)を描く鳥海山を漂っている。お城が崩され、梅津さんは「戊辰戦争で焼け野原になった新庄は比較しながら鋭く指摘し、外国人の目で「本

北」がなくなつて「新庄

『みすぼらしい町』と映る」と梅津さん。

踏査

『戸沢藩境石標』や、『史跡羽州街道』の標柱が立

て、マイナス面を英國と

羽根山地蔵堂の近くに、

上部の「従是(これより)

## 村山—新庄

# 鳥海山など「壮大な眺め」



## 息切らし、猿羽根峠越え

「イザベラ・バードのルート踏査中」という旗をリュックに付けた矢口さんらに、隼人さんもびっくり。この日は雲が多く鳥海山は見えなかつたが、店から撮影した写真を見せてもらい、手作りのジャムなどをこちそうに見つめを受け、猿羽根山を後にした。

この日、自転車三人とバス・列車二人に分かれて進んだ踏査隊のうち、「自転車部隊」は夕暮れ

日本報道部・伊藤哲哉、写真・色摩高幸

月見

1ヵ月定価300円(本体価格286円+消費税14円) 朝刊100円 夕刊50円(消費税込)

第43956号

(22)

107.10/22

「今朝新庄を出でから、二つから秋田県側への  
険しい尾根を越えて、非常に美しい風変わりな盆地に入った。ピラミッド形の丘陵が半円を描いており、その山頂までピラミッド形の杉の林で覆われ、北方へ向う通行をすべて阻止しているように見えるので、ますます奇異の感を与えた。その麓

へ、薬師山など金山三峰や杉の美林に囲まれた金山を訪れた。金山は江戸時代に同街道の宿場として栄え、明治になつても大きな旅籠(はたご)が残っていた。

イザベラ・バードは「八日羽州街道の上台跡を越したる東京のまちづくりグループ地紀行」

イギリスの女性旅行家イザベラ・バードは「八日羽州街道の上台跡を越したる東京のまちづくりグループ地紀行」

「矢口正武代表」観条例を制定した。白壁ネット」と松坂さん。町はこ

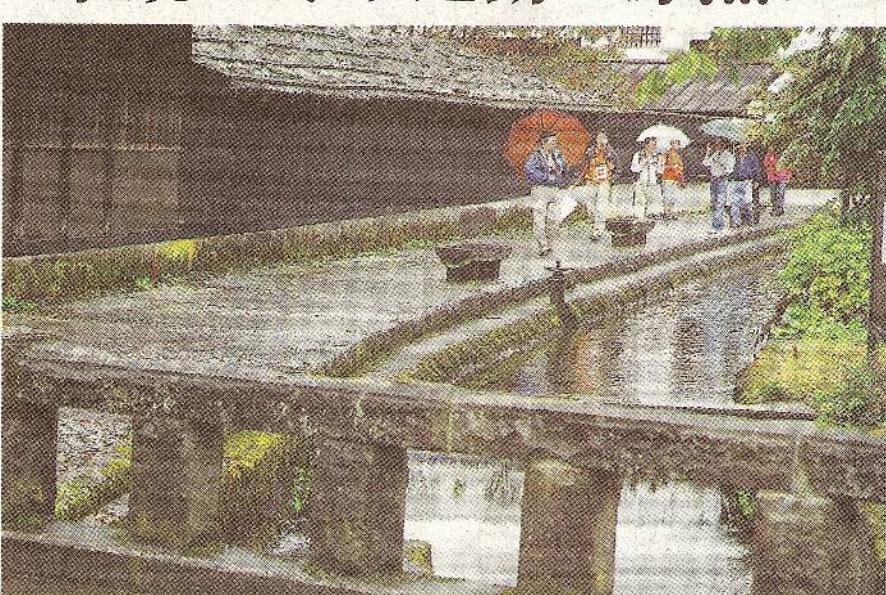
と切り妻屋根を持つ在来住宅に、最大五十万円を限度まで三百二十戸が助成している。

新築、増改築、色彩変成を受けた。「住宅産業旧建設省の都市景観大

（文）報道部・伊藤哲哉、写真）同・色摩高幸）

## 「ロマンチック」と絶賛

### 金山



バードが「ロマンチックな雰囲気の場所」と記した金山町の街並みを散策する踏査隊

はすそ野が広く、金山杉をはじめ地場産業の振興にも役立つてい

る「日本奥地紀行」の英語の原文を見ると、バードは金山をたたきめして美しいかった。金山も落ち葉がまちづくりに生かされている」と語った。

道は険しく、同行した通常に美しい風変わりな盆地を入れたことなどが、バードは金山に二日間滞在した。バードが東北地方を旅した道中、訪れる先々で「異人さん」と見ようと思いつかたが、金山をたつ際には、今の町村長にあたる戸長が村中に触れてきたが、金山の町がある。ロマンチックな雰囲気の場所である」(イザベラ・バード「日本奥地紀行」)

バードが「ロマンチックな雰囲気の場所」と評した街並みを将来に受け継ぐと町は「街並み景観づくり百年運動」を展開。

一九八六年には街並み景観づくりにしたといふ。

訳が日光を出て初めて鶏を手に入れたことなどが、バードは金山に二日間滞在した。バードが東北地方を旅した道中、訪れる先々で「異人さん」と見ようと思いつかたが、金山をたつ際には、今の町村長にあたる戸長が村中に触れてきたが、金山の町がある。ロマンチックな雰囲気の場所である」(イザベラ・バード「日本奥地紀行」)

バードは金山に二日間滞在した。バードが東北地方を旅した道中、訪れる先々で「異人さん」と見ようと思いつかたが、金山をたつ際には、今の町村長にあたる戸長が村中に触れてきたが、金山の町がある。ロマンチックな雰囲気の場所である」(イザベラ・バード「日本奥地紀行」)

### 赤湯から真室川踏査同行



▷6△

陽市赤湯間を含め、最終日に初めて本格的な雨に見舞われた。新庄の宿に自転車を置き、全員がバスで金山へ向かった。

金山町役場では元町総務課長で同町の「街並み案内」を務める松坂忠良さん(62)と、矢口恵午町環境整備課長が、バードと金山町について説明してくれた。松坂さんは

してくられた。松坂さんは「イザベラ・バードが金山区に与えた影響は非常に大きかった」と話す。

バードが「ロマンチックな雰囲気の場所」と評した街並みを将来に受け継ぐと町は「街並み景観づくり百年運動」を展開。一九八六年には街並み景

賞、日本建築学会賞など景観に関する数多くの賞に輝いた。

踏査隊は、バードが泊まったといわれている元旅館や、蔵を文化活動の拠点に改装した「蔵史館」、金山杉を使った屋根付き歩道橋「きごころ橋」、石造りの水路・大堰、金山小にあるバードの記念碑などに足を運び、風情あふれる町の魅力を満喫した。

踏査に参加した「まちネット」会員の会社社長横山稔さん(65)(東京都渋谷区在住、上山市出身)は、かつて大手商社に勤務し、長く外国に駐在した。「スペインでは看板に税金を課すなど景観保全を徹底し、どの街も美しいかった。金山も落ち葉がまちづくりに生かされている」と語った。

バードが来たことまちづくりに生かされている」と語った。

## 「バードの道」は今 赤湯から真室川踏査同行

▷7△

「ひどい道路で、けわしい峠を二つも越えなければならなかつた。私は道中ほとんど歩かなければならなかつたばかりでなく、もつともけわしい場所では人力車を押しあげる手伝いをせねばならなかつた。すばらしい場所にある及位という村では、休止して、頭の馬を入れ、雄物川の上流に沿って院内まで山道を歩いた」(イザベラ・バード「日本奥地紀行」)

金山を出発したイギリスの女性旅行家イザベラ・バードは、羽州街道の主寝坂峠、雄勝峠を越えて秋田県側に抜けた。峠道が険しく、馬から下りて歩くなど苦労して進んだようだ。雄勝峠は江戸時代に東北諸藩の参勤交代の道としてきつい、本県側に及位宿(秋田県)から院内宿があつた。バードの足跡をたどる

## 真室川

# 元気な地域 つないで線に



冷たい秋雨が降る中、旧主寝坂トンネルを歩き金山町中田から真室川町及位に入った

のんびりと散策した。

「まちネット」は、こ

とし六月に新潟県境—南

陽市赤湯間、今回は赤湯

から真室川町及位まで、

バードが旅したルートを

踏査した。リュックに「イ

ザベラ・バードのルート

踏査中」という旗を付

て自転車や徒步などで旅

し、各地で県民に声を掛けられた。

同会会員で前回、今回

とも踏査に参加した山梨

県甲斐市、会社員阿部智

信さん(33)は「山形はい

い所だと感じた。歴史が

あつて食べ物がおいし

く人が温かい。あまり

知られていないことが多

くはないと思った」と

振り返る。

主寝坂トンネル(一千九百四十四㍍)が開通し、

駅まで、雨の中を一時間

余り歩いた。

二〇〇五年十一月に新

主寝坂トンネル(一千九

百四十四㍍)が開通し、

駅まで、雨の中を一時間

余り歩いた。

主寝坂トンネル(一千九

百四十四㍍)が開通し、